ESPEC NEWS 最近の主なニュースをご紹介します。

5G通信機器の温度特性試験に対応した「電波暗箱型恒温器」を開発

5G（第5世代移動通信システム）通信機器の温度特性試験に対応した「電波暗箱型恒温器」を新たに4機種開発しました。本製品は、通信機器が設置される温度環境下での通信性能や安全性を確保する装置です。電波を遮蔽し恒温槽内での反射を防ぐ電波暗箱機能を備えており、−40℃〜+100℃の温度環境下で無線試験をすることができます。5G基地局や、自動車の電動化に向けて開発が進む車載モジュールなど大型の通信機器にも対応できるよう内容積の大きな機種を拡充し、高まる需要にお応えしています。

電波暗箱型恒温器

最先端半導体の検査時間を短縮　高発熱負荷対応「バーンインチャンバー」を開発

半導体の高発熱負荷に対応した「バーンインチャンバー」を開発しました。本製品は、半導体製造の検査工程において半導体に温度や電圧の負荷をかけて良品・不良品の選別を行う装置です。近年、社会のデジタル化や自動運転の普及に伴い半導体が高性能化し、消費電流の増加によって半導体自体の発熱量が増加しています。本製品は、−20℃〜+150℃の温度範囲において半導体が高発熱状態でも精密に温度制御できます。一度に検査できる量を増やせるため、検査時間の短縮につなげることができます。

高発熱負荷対応「バーンインチャンバー」

カワスイ 川崎水族館にてアクアポニックスを活用した共同研究を開始

エスペックミックが、神奈川県川崎市のカワスイ 川崎水族館および日本大学生物資源科学部 熱帯資源作物研究室と、アクアポニックスを活用した物質循環システムの実証実験に関する共同研究を開始しました。アクアポニックスは、植物の水耕栽培と陸上養殖を掛け合わせたシステムです。魚などの排泄物を微生物分解させ、野菜生育の栄養源として活用することで化学肥料の使用量を削減することができます。本研究において、エスペックミックはアクアポニックスおよび植物の栽培技術を提供しており、生きものと植物の共存共栄を表した循環型システムの確立に貢献していきます。

アクアポニックスを活用した物質循環システム
（イメージ図）

2030年度温室効果ガス削減目標が SBT認定を取得

2023年7月、エスペックグループの2030年度温室効果ガス排出量削減目標について、国際的なSBTイニシアチブ※より「SBT(Science Based Targets)」の認定を取得しました。エスペックグループは、2030年度環境目標として温室効果ガス排出量 SCOPE 1+2(自社排出)で2019年度比60%削減、SCOPE 3(間接排出)で30%削減を設定しています。この目標が、パリ協定における世界の気温上昇を産業革命以前と比べて1.5℃に抑えるための科学的根拠に基づいた目標であると認定されました。

※ パリ協定の目標達成に向け、企業に対して科学的な根拠に基づいた温室効果ガス排出量の削減目標の設定を推進している国際的なイニシアチブ

トルコ・シリア地震に対する被災地支援として寄付を実施

2023年2月に発生したトルコ・シリア地震の被災地の救援活動および復興支援に役立てていただくため、3月、日本赤十字社大阪府支部に当社グループ会社および役員・社員からの災害義援金、総額119万1,600円を寄付しました。また4月には、マッチングギフト制度※「エスペックスマイルクラブ」を活用し、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンと特定非営利活動法人国境なき医師団日本に総額86万600円の寄付を行いました。

※ 企業が社会貢献を目的に寄付や義援金を募る際、寄せられた金額に対して企業側が一定額、または一定比率の金額を上乗せし寄付金を拠出する仕組み

社外からの評価

■ CDP「サプライヤーエンゲージメント評価」で最高評価の「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に初選定

■ 日本経済新聞社「第4回日経SDGs経営調査」で4つ星に認定

■ 神戸R&Dセンターが経産省「全国みどりの工場大賞」で「近畿経済産業局長賞」を受賞

■ 日本経済新聞社「第6回日経スマートワーク経営調査」で3.5星に認定

■ 英フィナンシャル・タイムズと独調査会社スタティスタが共同実施した「アジア太平洋地域気候変動リーダー企業」調査で上位企業275社に初選定

■ 日本経済新聞社「脱炭素経営ランキング GX500」で122位(格付けBB)